



半沢利貞

どうする 今後の湯沢高校

質 問
湯沢高校存続について伺います。六日町女子高が福祉科・体育科を新設し男女共学として八海高校となった。小泉総理は観光立国、平山知事は、観光立国と三言三言している。湯沢町は観光立町であり、ホテル科・観光科等の新設で存続が出来ないか？

町長答弁
昭和6年の上越線開通時からわが町は、公共事業の恩恵を受けて五ヶ村合併以来17号線の開通、上越線の複線化、新幹線高速度道路と公共事業に因って町は発展し潤ってきた。高速交通時代の幕開けと同時に当町の特質、地の利を生かしたスキー産業、通年観光にも力を入れてきた。首都圏から近い事もあって空前のリゾート開発でマンションの乱立となった。バブル崩壊後の町は灯が消えて夢のない町となってしまった。以下町長の所見を伺います。

質 問
清津川ダム建設中止後の二俣地域整備方針と責任について。



新潟県立湯沢高等学校

町長答弁
八海高校は何年かかかって生まれ変わった。ホテル科・観光

質 問
科を新設しても就職の受け皿がないし新設の可能性も低い。

町長答弁
14年6月の議会で宮田議員が湯沢高校の灯を消すな！と質問している。町長は25年の歴史があり、なくすことはできない。情報を集め議会共々早期に運動を展開したい、と答弁している。今年7月県が方向を正式発表した。対応が遅すぎる。この7月になってからバタバタしても遅い。

質 問
滞納問題と収納課の実績について伺います。

町長答弁
14年12月6日教育長と県に出向いた。真剣に取り組んでいる。この17日に湯沢高校の将来を考える会の会長等と県に出向く。

町長答弁
税金の繰越分として17億9千600万円あるが現年度分としては、ご協力戴いて実績は上がったと思っております。

質 問
※今定例会の議案の中に国保税の納税回数が年に4回払いであったものが3回に分けて払うように改正されました。払い易くして取めていただく事が私の主張であり、屋根の当と借金は、溜めてはならない。

農家 生産組合が誇りを 持って米づくりのできる 農業体制の確立について



田村正幸

質 問
昨年12月に決定された、米政策改革大綱には、平成22年までに農業構造の展望と米づくりの本業あるべき姿を実現することを目的とし、遅くとも平成20年には農業者、農業者団体が需要に応じた生産を白主的な判断で行うシステムを構築するとのこと。市場原理の導入ということから、売れる米「魚沼産こしひかり」を生産する湯沢町の農家や生産組合にとっては喜ばしいことです。しかしながら米生産も需給調整の名のもとに生産調整が面積から数量へと変わりますが配分されます。当期の米の生産量は1万2千俵で消費量は5万俵といわれております。湯沢町は観光地であり自然景観、環境保全と農業は密接な関係にあります。また、農業体験学習などのつながりを考えたとき、農家、生産組合等が誇りをもって米づくりの出来る環境整備が必要と考えて伺います。

町長答弁
生産調整は米の消費量の減少と圃場整備、生産技術の向上で生産量が上がったことによるアンバランスを解消し、生産農家の安定収入を図る為にとりう政策の名のもと、画一にさせられてきた。生産調整は生産者にとりては受け入れられないわけにいきません。新しい制度では、米の安定化のために生産者の努力をうたっています。地域間調整は未達成のベナルテイをかわすために行ってきた。新制度では必要ないと考えておりますが、新潟県のレベルでも明確な回答がないというのが現状です。新しい産業としての米づくりについて育成、支援を今後勉強し検討して行きたいと思っております。国の制度や県の通達等を含めて、良い方向を考えていくために、担い手農家の方々と話し合いの場を作っていきたいと考えております。



安心して米作りができる 体制の確立を目指せ

えっております。助成金は出荷した場合10アールあたり約7万5千円で、コンバイン、乾燥機は貸し出しを考えております。生産方式は、農家個人栽培と生産組合に委託する方式の両方で考えております。作付面積は特に定めていませんが、米の収量よりかなり低いので2.3haが必要と考えております。

質 問
16年7月に旭原の活性化施設がオープンを予定している。転作物のそばや大豆を消費できる施設で転作物の活用と農業振興における地産地消の増進に寄与するところ。活性化施設財政計画によれば、16年には2千4人が予定されている。そばの転作物は旭原で2haと聞いているが、転作物によっては引き受ける農家が少ないのではないかと考えられる。今後の計画（転作物面積、転作物を含め）と方向性について。

町長答弁
旭原の活性化施設は農村地域の活性化、生産物の地産地消や体験施設として幅広く活用されることを目指しています。ソバ打ち体験がメインの施設ですので、地元産のソバを体験者に提供したいと考えています。旭原の大地全体が、そばの白い花で埋め尽くされるようになれば素晴らしい景観になると思っております。そこで今年からそばを転作物の主要作物と捉え、作付面積を拡大したいと考えています。転作物助成金の見直しと、そば用コンバインと乾燥機の購入を考慮しております。